

議題 北九州市立美術館運営評価について

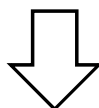
評価項目A: 資料収集・保存

外部評価

① 実績に対する評価	評価	理由
	評価できる。	1 「特色あるコレクションづくり」の方針に沿って行われ、自主企画展の展示に繋げていこうとする方向性は評価できる。 2 改修の機会に収蔵品の保存状態のチェックもよく行われている。 3 自主企画展の調査、準備を行う中で、該当作家の作品の寄贈・購入、併せて既存所蔵作品の修復も行っており、評価は高い。 4 ほぼ目標とおりに達成されている。

② 自己評価の妥当性	妥当性	理由
	A評価は妥当。	実績に対して、妥当だと考える。

③ 運営改善の提言	1 リニューアル・オープン後のさらに充実した美術館活動にむけて、作品購入費及び修復費の増大が強く望まれる。 2 郷土ゆかりの作家以外のコレクションの充実も進めてほしいが、自主企画展の該当作家の作品の寄贈・購入、修復などバランスよく行ってほしい。 3 方針や予算の制限があるため、作品・資料の収集には計画が必要である。 4 収蔵品をチェックした結果から、修復の緊急性、必要性などを判断して、今後の修復計画等に活用することが必要である。また、市民の財産である作品や資料毎にカルテを作成・データ化して、現状を把握することが望まれる。 5 地元で活動する、まだ社会的には評価がつく前の若手作家に光を当てる取組みを行う。
-----------	---



課題解決のために取り組むこと
あらたな収集方針を策定し、当館のコレクション内容を体系的に充実させる。市民の財産であるコレクションを適切に保管し、計画的に作品修復を進める。

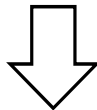
評価項目B: 調査研究・展示

外部評価

① 実績に対する評価	評価	理由
	評価できる。	1 自主企画展、共同企画展ともに充実しており、美連協の賞を受けるなど、美術館活動としての外部評価も高い。 2 他館との連携も持続されており、評価できる。 3 評価は妥当。 4 入場者数が4万人も減少しているので、検証が必要。

② 自己評価の妥当性	妥当性	理由
	1 A評価は概ね妥当である。 2 民間ではD評価となる。	1 目標を達成しており評価は妥当。 2 目標は実現可能な数字をあげ、あげたからには必達するというのが民間のやり方。

③ 運営改善の提言	1 調査研究とその発表については、つねに質の向上を目指していただきたい。 2 展覧会に関連する研究とその発信以外にも、コレクション研究とその成果還元に努めてほしい。 3 目標は実現可能な数字をあげるべき。 4 市民が興味あるもの、わかり易いものを市民目線で企画していただくことが必要。 5 北九州市立美術館でしか見られない企画を楽しみにしている。
-----------	---



課題解決のために取り組むこと
調査・研究とその公開について、より有益で効果的な方法を探る。また、展覧会の話題性を高める努力を進める。

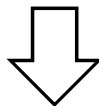
評価項目C:教育普及・学習支援

外部評価

① 実績に対する評価	評価	理由
	概ね評価できる。	1 ワークショップやアウトリーチ事業として、館外での活動をを多く実施できたことは、今後の事業拡大に向けて評価できる。 美術鑑賞教室の参加校が増加し、アウトリーチ事業の試みで 2 新たな可能性を見出すなど、一定の成果が見られたことは評価できる。 3 講演会やギャラリートークは回数も参加者数もかなり評価できる。

② 自己評価の妥当性	妥当性	理由
	1 A評価は妥当である。 2 B評価が妥当である。	1 たんけんパスポートの利用減少を理由に項目1をB評価としているが、止むを得ない事情(本館の休館)もありA評価でもよい。 2 項目1がB評定で、項目2がA評定であれば、総合評定はBが妥当ではないか。 3 大分、長崎県立美術館等のワークショップなどと比べると総合評価はBが妥当ではないか。 4 参加者数が前年度以上となっていないのでA評価は甘い。

③ 運営改善の提言	1 今年度から実施される小学3年生対象のプログラムの充実と情報発信。 2 児童・生徒向けの美術館案内、鑑賞の手引きやワークシートなどの充実。 3 参加者への事後アンケートの実施等による質や内容の成果と把握と発信。 4 参加者増加のための工夫及び情報発信。 5 アウトリーチ事業の場所・時間帯・対象などによってプログラムを変えるなど、多様なメニューの提供。 6 「幼児・低学年対象」、「大人も童心に返れるもの」など多岐に渡って行き普及を図る。 7 評価の対象、見直しの対象が「数」のみ目標とならないように。 8 デジタルアーカイブを定期的に購入していけば、出前授業でも使用できる。
-----------	--



課題解決のために取り組むこと
子どもから大人向けまで多角的な教育普及活動を実践する。また、参加者数とともに内容の質的向上も図る。

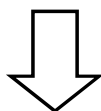
評価項目D: 市民参画・連携

外部評価

① 実績に対する評価	評価	理由
	評価できる。	1 ボランティア活動の見直しについての他都市調査や見直しの検討が行われており、評価できる。 2 文化施設や他都市との連携・交流なども、計画に沿って実施されている。 3 実績が0なので評価できない。目標に対する評価の記載がない。

② 自己評価の妥当性	妥当性	理由
	A評価は妥当。	目標が達せられており、実績に対する評価は妥当である。

③ 運営改善の提言		
	1 他都市などのボランティア活動の見直しの調査結果を含めて、現時点でどのような検討の進捗状況にあるかなどの報告をして欲しい。 2 ボランティア活動は、若い人の参画も大事だが、中高齢者に対する参画の在り方を検討してほしい。 3 美術館とCCAの共同企画を定期的に行い、相互の取組みを充実してほしい。 4 新ボランティア体制整備に係る具体的、方向性とスケジュールが必要。	



課題解決のために取り組むこと
ボランティア制度の整備を進め、活動再開に向けて具体的に取り組む。

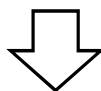
評価項目E: 広報・情報発信

外部評価

① 実績に対する評価	評価	理由
	評価できる。	1 フェイスブック、ツイッターなどのSNSを活用している点は評価できる。 2 館外(陶磁器フェアや映画館)で行なった情報発信も評価できる。

② 自己評価の妥当性	妥当性	理由
	A評価は概ね妥当である。	設定した目標に対してA評価は間違いないが、目標入場者総数(評価項目B)が目標数に達成していないのであれば、少し甘いのではないかと。

③ 運営改善の提言	1 効果測定を行い、効果の得られないものに対しては廃止するなどの割り切りが必要。 2 情報発信は、結果についてのフィードバック、数値目標が必要である。 3 他の評価項目とリンクさせて、数値目標を設定する仕組みや、アンケートによる認知経路、媒体を把握して翌年度以降の目標に反映させてほしい。 4 SNSを研究し(拡散手段など)、魅力的な情報が発信できるようにしてほしい。 5 小中学生対象の学習プログラムを積極的に広報する。	
-----------	---	--



課題解決のために取り組むこと
広報活動の結果の測定が十分に出来ていなかったことや、SNSによる情報発信もまだ改善の余地がある等の反省を踏まえ、リニューアルを機に広報活動の見直しに着手する。 ・アンケートの手法を研究し、広報活動の効果測定を行うとともに、より多くの市民要望を汲み取る。 ・SNSによるより効果的な情報発信方法の研究。 ・画一的な広報でなく、展覧会の特性に応じた広報の展開。 ・展覧会だけでなく、美術館に足を運んでもらえるような情報の発信。